

何歳からでもスタートできる！通訳・翻訳ワーク

INTERVIEW

増える中高年層に求めるもの

## 採用側のホンネ

お話 : 株式会社ジェスコレーション 代表取締役 丸山 均さん

### —第一線で活躍する人の年齢層は？

日英なら40代、英日なら40代～50代です。60代半ばを境にやはり処理量が減っていく気がします。それは能力というよりも体力的に厳しくなって仕事を選ぶようになり、少しずつフェードアウトする方が多いですね。

会社員と違って自分で進退を決められ、力のある人は仕事も選べるので、そういう意味では年齢を気にせずできる仕事だと思います。

### —50代以上の応募者は？

新規の登録翻訳者で多いのは30代から40代です。正直に申し上げると、50代以上の応募は非常に多いけれど合格率は低いのが実情です。

ただし、50代、60代だからダメということではなく、経歴によります。中高年の方の中には、翻訳者として豊富な経験をお持ちの方や優秀なバックグラウンドをお持ちの方もいらっしゃいますので、必ず書類は拝見し、検討させていただきます。その後、これはと思う方にはトライアルを受けていただきます。

## 一未経験の中高年層にチャンスはある？

弊社では応募条件を実務経験2年以上と定めさせていただいているので、年齢とは関係なく、翻訳者としての実務経験（翻訳でお金を稼いだ経験）がある方でないと、登録は難しいかもしれません。ただ、これまでの御経歴の中で、何か光るものがあればトライアルを受けていただくこともあります。

## 一翻訳業界としてシニア層のマンパワーについてどう思うか

高齢化社会ですし、シニア層の力はどの業界でも注目されているところです。翻訳業界でも貴重な戦力として、歓迎というよりもむしろ活用していかねばならない時期にあると思っています。

そのためには、応募者の方を一律に年齢で判断してしまうことなく、翻訳会社側もそれぞれの方の能力や御経歴をよく見定めて、そしてよく翻訳業界の状況をご説明して、皆さんが能力を發揮できるように、翻訳者の方と一緒に成長していかなくてはならないと感じています。

## 一仕事をしたいと望む50代以降の人にアドバイスを

若い人は経験を積もうという意識が高いですが、年齢を重ねるとやはり経験や立場やプライドが邪魔するものです。翻訳会社からのお願いとしては、「輝かしい経験を持っているから翻訳ぐらいはできる」と思わずに、謙虚な気持ちで取り組んでいただきたいですね。例えば、若い社員にチェックされても、その修正を次の仕事につなげていこうという前向きの姿勢がとても大事です。1～2年は下積み感覚で「どんな仕事もやろう」という気概があれば、十分にいい翻訳者として活躍できる可能性を持っている方はいらっしゃると思います。

昔と比べると、翻訳者の年齢層もどんどん上がっています。57～58歳で企業を退職し、1～2年は下積みや見習いとしてやって、60～70歳は翻訳者としてバリバリ活躍、そして75歳で引退という人もいらっしゃいます。こうしたケースはこれから増えてくると思いますし、そうなってほしいと思います。

## 丸山均さん ホンネトーク

株式会社ジェスコレーション

<http://www.jescorp.co.jp>

### 1. チョット困るこんな人

50代以上の応募者に多いのは、高学歴で大企業に勤務して出世もして、海外勤務歴もあるという人。そういう方はあまり採用に結びついていません。実力がある方もいらっしやると思うのですが、プライドをお持ちなのか、新人扱いされるのはお気に障るという方も少なくありません。

### 2. 比較的年齢層が高い分野が！

他のジャンルと比べて、特許の翻訳者は年齢層が高いと思います。例えば1プロジェクトが数十万から数百万ワードあるローカライズ系の仕事では、最先端のツールを使いながら複数の翻訳者で作業を分担する必要があります。その点、特許翻訳では1明細書に1翻訳者が基本ですから、年齢を重ねた方でも無理なく自分のペースで進められます。特許翻訳はひとたびツボにはまってさえしまえば、比較的高齢まで活躍できるジャンルだと思います。

### 3. 翻訳はラクな仕事ではない！

翻訳は頭を使う仕事なので、まだまだ頭がクリアな60代が定年退職後にゆったりやれる、という幻想を抱く人がいます。しかし実際には短納期に対応するために、頭だけでなく気力・体力を伴う、ハングリージョブであることを十分理解していただきたいですね。「定年後はのんびり暇つぶしに自宅で翻訳でも・・・」という安易な発想の方のご応募はご遠慮いただいております。